

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/
佐藤 亨

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教職大学院の共通科目や専門科目において、以下の取り組みを行う。

- ① 授業内容に関しては、少年鑑別所や児童自立支援施設での経験に基づき、生徒指導の対象となる児童・生徒の心のあり様やそれらの児童・生徒への関わり方について、具体例を挙げながら伝え、そのような児童・生徒と教員として関わる際の基本的な心構えや姿勢などを身に付けさせていく。
- ② 授業方法に関しては、講義と事例に基いた討議を組み合わせることによって、知的な理解と共に実践的な力量のアップを図る。特に、これから教員を目指す教員養成特別コースの学生と現職教員である教職実践力高度化コースの院生とを混在させたグループを作り、討議を行うことによって、教員養成特別コース院生の実践知の深まりを図る。
- ③ 授業評価に関しては、毎時間感想や授業についての簡単なコメントを記述させることにより、授業内容についての理解が深まったかどうかのチェックを行う。同時に、チーム総合演習における取組内容から、上述した力がついたかどうかについて評価する。

2. 点検・評価

- ① 中間報告で述べたように、教職大学院の前期共通科目「生徒指導の理論と実践」と後期専門科目「子どもの内面理解」において、子どもの心の在り様や子どもとの関わり方について具体例を挙げて伝えた。毎時間記載してもらっている感想では、実践的でわかりやすいというコメントを多く得ている。また、授業の意義については、「生徒指導の理論と実践」で平均4.5、「子どもの内面理解」で平均4.6の高い評価を得ることができた。
- ② 授業方法については、上記「生徒指導の理論と実践」において、架空事例を扱った集団討議を行い、そこで現職院生と学卒院生の合同グループで討議させたことによって、特に学卒院生から大きな学びがあった旨の感想があった。また、後期専門科目「生徒指導・教育相談における関係機関との連携」において、適応指導教室や児童自立支援施設などの関係機関を実際に訪問し、職員から直接話を聞くことによって、大きな学びが得られたとの評価を得た。
- ③ 成績評価に関しては、毎回記載してもらっているコメントから院生にとってどのような学びが起きているかをチェックし、それによって学びがどう進んでいるかを確認しながら授業を展開した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○教職大学院の現職3コースが一本化され、カリキュラムも大幅に変わったことから、まずは新設科目等の円滑な実施に取り組む。その中で上述した生徒指導に係る実践力の向上を図る。
○学生生活支援に関しては、P1のクラス担任的な役割を担うことになっており、新入生と積極的に連絡を取りながら、学生生活に支障がないように取り組む。
○臨床心理士養成コース院生に対して、臨床心理査定演習Ⅱのフォローアップとして、希望者にテスト結果のフィードバックを行い、査定に係る力量の向上を図る。また、公務員試験対策として、公務員志望者に対して模擬試験や模擬面接を行い、就職活動を支援する。

2. 点検・評価

○1年(P1)の担当として、様々なオリエンテーションや説明会を実施し、教職大学院の新しいカリキュラムの円滑な実施に努めた。ある程度は院生の不安の低減等に寄与することができたと思われるが、最後の授業評価のコメント等を見ると、一部の院生には不満が残っていることがうかがえ、まだまだ不十分な面があったようだ。
○臨床心理士養成コース院生への支援については、十分にはできなかった。例年行っている公務員試験のオリエンテーションは実施できたが、それ以後の勉強会は院生に任せる形になってしまった。また、テスト結果のフィードバックについては、10月からようやく実施できたが、時期が遅くなってしまったためか希望者が少なく、少人数のフィードバックに留まった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

○研究に関しては、相変わらず滞っており、自分自身の大きな課題である。以下の4つをテーマとして考えており、少なくともそのうちの一つは今年度形としてまとめる。

- ①児童自立支援施設に入所する児童・生徒の心理的特性～ロールシャッハテストの結果から～
- ②女子非行の理解と支援～矯正施設・福祉施設に入所する子どもの特徴から～
- ③児童自立支援施設における処遇のあり方に関する一考察
- ④刑務所における対人関係講座の意義について

2. 点検・評価

○結局、研究については十分な作業を進めることはできなかった。次年度は他大学に移ることになるが、これまでに蓄積されたデータの活用を図り、論文に繋げていく必要がある。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

○P1(1年生)の学修の担当者を担うことになったが、大幅に教員組織もカリキュラムの内容も変わったことから、院生との連絡を密に行って、できるだけ戸惑いのないように配慮し、円滑な専攻運営に寄与する。
○カリキュラム開発のプロジェクトチームのメンバーになったことから、新カリキュラムが有効に機能するように検討を行い、よって大学運営に寄与する。
○高度学校教育実践専攻の、専攻共通経費の管理者として適切な予算編成や円滑な予算執行を行い、よって大学運営に寄与する。

2. 点検・評価

○中間報告で述べたとおり、教職大学院のコラボレーションオフィス担当やカリキュラム開発委員会メンバーとして、新カリキュラムの円滑な実施に務め、大学運営に寄与した。
○高度学校教育実践専攻の予算管理担当者として、予算編成を行うと同時に、円滑な執行に務めた。また、今年で転出となることから、次の予算管理担当者へ丁寧な引継ぎを行うことができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

○これまでと同様に以下の活動に取り組むことによって、社会への貢献に努力する。
①徳島県立徳島学院(児童自立支援施設)にボランティアスタッフとして関わる。
②徳島刑務所において、篤志面接委員として受刑者のグループワークを行う。
③神戸保護観察所において、性犯罪者の改善プログラムにアドバイザーとして関わる。
○徳島県人権教育指導員等として、「刑を終えて出所した人たち」や「非行少年の抱える問題」について講演活動を行い、一般の方や学校関係者などの理解を深めてもらうことで、非行少年などの再犯(再非行)の防止に努力する。
○徳島県教育委員会から委嘱されているスクールプロフェッサーや徳島市教育委員会から委嘱されている「学校元気アップ事業」の専門家チームのメンバーとして、学校の依頼に応じて教員への研修会や個別の事例に関するコンサルテーションを行い、よって社会への貢献を行う。
○本学が行う公開講座や教育支援講師・アドバイザー派遣事業に積極的に協力し、社会への貢献を行う。

2. 点検・評価

○中間報告で述べたとおり、徳島学院、徳島刑務所、神戸保護観察所などで、ボランティアスタッフやアドバイザーとして関わり、社会貢献に務めた。
○本学が行う公開講座を今年も大阪で実施した。
○スクールプロフェッサーや教育支援アドバイザーについては、中学校で1回、小学校で2回、PTA講演会や教員とのケースカンファなどに参加し、社会貢献に努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)